

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
<p>1 実践1 【第三学年 道徳『「わたしらしさ」をのぼすために』】</p>	<p>中学年となり、共に過ごす友達を「性別」で選ぼうとする言動がみられるようになる中で、「男らしさ」「女らしさ」にとらわれずに、「わたしらしさ」に着目して自分自身のよさ、好きなこと、がんばりたいことを考え、発表した。授業の導入に、NHK for Schoolの動画「男らしく、女らしくがいいの？」を視聴し、性別にとらわれずに自分の好きなものや、やりたいことを考え、発表しやすい雰囲気形成できた。</p> <hr/> <p>成果 NHK for Schoolの動画を視聴したことで、あまり積極的に発表をしない児童も、自信をもって好きなことや、得意なことなどを発表することができ、活発な話し合い活動になった。</p> <hr/> <p>課題 動画の視聴や、学習活動を通して、様々な観点から自分らしさを見つけることができた。一方で、動画内で紹介されたステレオタイプな考え方に共感して反応してしまう児童への言葉がけを工夫する必要を感じた。</p>
<p>2 実践2 【職員研修及び 生徒指導事例研 修会】</p>	<p>4月から毎月実施したアンケートの結果から、悩みや困り事について児童と個別面談をした。また、生徒指導主事を中心とした情報共有を行い、いじめなど人権に関する問題行動への対応の仕方や、より効果的な指導方法について適宜話し合った。</p> <p>人権教育についての研修では、茨城県人権教育指導資料「みんなえがお」のチェックリスト等を活用した。</p> <hr/> <p>成果 毎月実施のアンケートにより、児童の実態を把握することができた。また、いじめの早期発見・早期解決に繋がった。職員間では、実際に行った効果的な指導法を出し合うことで、具体的な指導法の意見交流ができた。また、人権教育のチェックリストを活用することにより、職員の人権意識をさらに高めることができた。</p> <hr/> <p>課題 日頃かかわりが少ない他学年の児童の情報をよりよく共有し、すべての教員が一人一人の個性を尊重した指導に生かせるよう、有効な指導法を紙面にまとめて共有したい。</p>